吉野耐火コラム
ZC－1K

１時間耐火構造　国土交通大臣認定　ＦＰ０６０ＣＮ－０４１５（独立柱）
ＦＰ０６０ＣＮ－０４４０（合成柱）

施工仕様書

［令和８年１１月版］

YOSHINO
安全で快適な住空間を創る 吉野石膏

吉野耐火コラム　ＺＣ－１Ｋ
施工仕様書

Ｔ－０３６－１

はじめに

この施工仕様書は､表紙に記載してある耐火構造認定の条件を満足するための推奨施工方法を示したものです。

本書を基に現場毎の施工要領書および施工計画書の作成をお願いいたします。

尚、施主や設計者の指定による特記仕様等で本書に記載が無い場合は、耐火構造認定書別添にて認定条件の範囲であることを確認の上、施工要領書および施工計画書に反映させてください。

適切な施工管理体制にて施工をしていただくために

特定共同住宅の住戸等と住戸等の界壁を乾式耐火壁にて施工する場合は、“特例基準「消防法施行令第２９条の４」”に基づいた総務省令第４０号、その細目を定めた消防予第１８８号および５００号通知の内容を遵守する義務があります｡その５００号通知には乾式耐火壁の施工条件として､｢適切な施工管理体制が整備されている場合」と明記されております。

「適切な施工管理体制が整備されている場合」とは、

1　乾式壁の施工方法

住戸等と住戸等との間の防火区画を形成する壁のうち乾式のもの（以下「乾式壁」という。）の施工方法が、当該乾式壁の製造者により作成された施工仕様書等により明確にされており、かつ、その施工実施者に周知されていること。

2　施工現場における指導・監督等

乾式壁の施工に係る現場責任者に当該乾式壁の施工に関し十分な技能を有する者(乾式壁の製造者の実施する技術研修を修了した者等)が選任されており、かつ、当該現場責任者により施工実施者に対して乾式壁の施工に係る現場での指導・監督等が行われていること。

3　施工状況の確認等

乾式壁の施工の適正な実施について、自主検査等により確認が行われ、かつ、その結果が保存されていること。

4　その他

ア　施工管理体制の整備状況については､当該特定共同住宅等の施工全般に係る責任者の作成する施工管理規程等により確認すること。

イ　乾式の壁と床、はり等の躯体との接合部の耐火処理については、特に徹底した施工管理を行うこと。

上記は、施工現場で乾式戸境壁の耐火性能を確保するために施工管理体制を整備することを目的としております。この考え方は戸境壁以外の耐火被覆を施工する際にもあてはまることから、適切な施工管理体制の整備をお願いします。

吉野耐火コラム　ＺＣ－１Ｋ
施工仕様書

Ｔ－０３６－２

目　次

①総　則
　１－１　適用範囲
　１－２　施工計画書の作成と周知徹底
　１－３　施工中の疑義
　１－４　検　　査

②安全対策

③せっこうボードの荷姿、運搬、揚重、保管
　３－１　荷　　姿
　３－２　運　　搬
　３－３　揚　　重
　３－４　保　　管
　３－５　残材処理、清掃

④材　料
　４－１　主構成材料
　４－２　副構成材料

⑤施工要領
　５－１　標準施工手順
　５－２　施工要領

⑥検　査
　６－１　自主検査
　６－２　立会い検査

⑦認定書
　耐火構造

⑧標準図
　水平断面図

⑨自主検査チェックリスト

吉野耐火コラム　ＺＣ－１Ｋ
施工仕様書

Ｔ－０３６－３

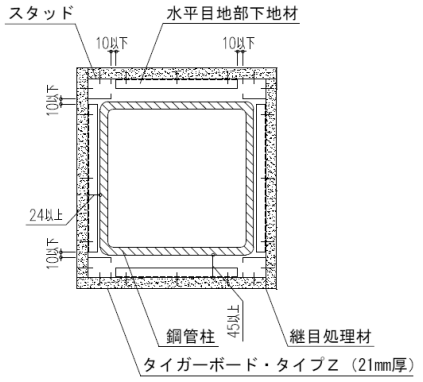
① 総 則

１－１　適用範囲

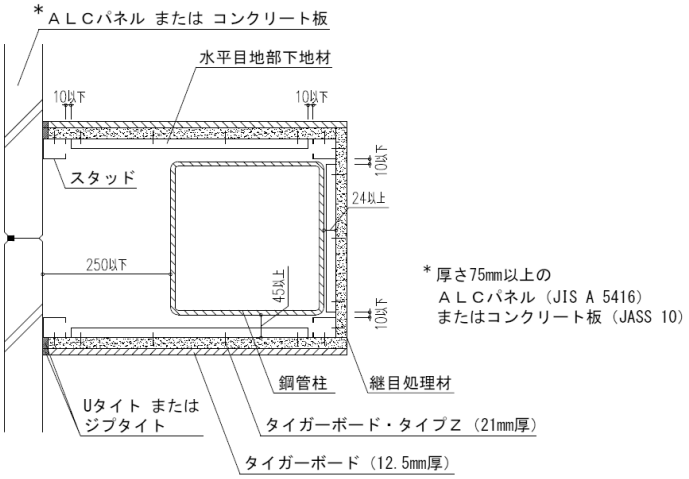
この施工仕様書は、吉野耐火コラム ＺＣ－１Ｋについて適用する。

吉野耐火コラム ＺＣ－１Ｋ
１時間耐火構造　国土交通大臣認定　ＦＰ０６０ＣＮ－０４１５（独立柱）
ＦＰ０６０ＣＮ－０４４０（合成柱）

水平断面図（角形鋼管を用いた場合の「ＺＣ－１Ｋ」柱被覆構造の仕様）



独立柱の水平断面図



合成柱の水平断面図

※鋼管柱の断面寸法：□－３００㎜以上×３００㎜以上、厚さ９㎜以上
○－φ３８２㎜以上、厚さ９㎜以上
※鋼材の種類　：一般構造用角形鋼管（ＪＩＳ Ｇ ３４６６）ＳＴＫＲ４００、ＳＴＫＲ４９０
一般構造用圧延鋼材（ＪＩＳ Ｇ ３１０１）ＳＳ４００、ＳＳ４９０
溶接構造用圧延鋼材（ＪＩＳ Ｇ ３１０６）ＳＭ４００、ＳＭ４９０
建築構造用圧延鋼材（ＪＩＳ Ｇ ３１３６）ＳＮ４００、ＳＮ４９０
一般構造用炭素鋼鋼管（ＪＩＳ Ｇ ３４４４）ＳＴＫ４００、ＳＴＫ４９０
建築構造用炭素鋼鋼管（ＪＩＳ Ｇ ３４７５）ＳＴＫＮ４００、ＳＴＫＮ４９０
※当柱被覆構造は、**タイガーボード・タイプZおよびタイガーボードの継目処理が必須**となります。
※本書の図面寸法値は、各部材の公称寸法を記載しております。

１－２　施工計画書の作成と周知徹底

吉野耐火コラム ＺＣ－１Ｋの施工に際しては、この施工仕様書を基に現場毎に施工計画書を作成する。事前に説明会、その他の方法で、作業員全員に周知徹底を図る。

１－３　施工中の疑義

施工中、施工計画書に明記されていない事項、または疑義が生じた場合は、認定条件を確認の上、設計者・建築元請業者などと施工方法を検討する。

１－４　検査

施工業者は、工事が完了した時点で自主検査を実施した後、建築元請業者の監督員に報告し、検査を受ける。

②　安全対策

建築元請業者の安全方針に従って対策してください。

《タイガーボード類の注意》

＊指定の用途以外にご使用の場合は、充分に性能を発揮できない場合があります。

＊ボードを施工する際の切断作業では集塵などに留意し、防塵カッターや集塵丸鋸を使用してください。
　また、サンディングなどの作業で発生する粉塵に対しては、防塵マスクや安全メガネを着用してください。

＊在庫の際、積層段数が多いと荷くずれの危険があります。

＊タイガーボード類の廃材、洗浄排水の処理については、環境公害とならないようにご注意ください。「廃棄物の処理および清掃に関する法律」などの法令に基づき適切に処理してください。

③　せっこうボードの荷姿、運搬、揚重、保管

３－１　荷姿

保管荷姿は、通常、強化せっこうボード（２１㎜）で６０枚を１山、せっこうボード（１２．５㎜）で１２０枚を１山としてある。

３－２　運搬

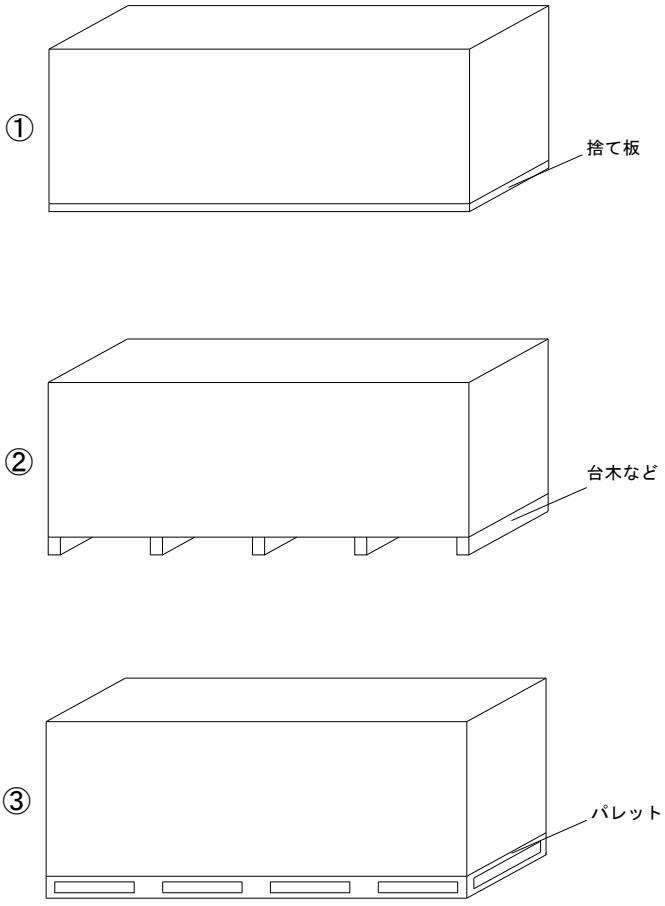
せっこうボードの搬入は、建築元請業者の監督員との打ち合わせにより、現場の搬入計画に基づいて行う。

３－３　揚重

現場の安全対策の基準に従い揚重する。

３－４　保管

（1）荷くずれ、角欠けがないように均等に置く。
（2）壁際より、最低１m以上離す。
（3）傾斜面、墨出し部には置かない。
（4）凸凹面や水漏れ部には置かない。上階から漏水の恐れがある場合は、あらかじめシートなどで養生する。
（5）せっこうボードは、波打ち、そりがでないように下図のように、高さのそろった台木などの上に保管し、ボードの縁が台からはみ出ないこと。また、各山の一番上のボードは裏面を上面とすること。



＜せっこうボードの保管例＞

（6）２段積みなどを行う場合は、台木の位置を各段でそろえること。
（7）せっこうボードを踏み台にしないこと。

３－５　残材処理、清掃

せっこうボードの切断加工などを行った作業場所は清掃する。せっこうボード、その他の残材は、あらかじめ決められた置き場に集積する。

吉野耐火コラム　ＺＣ－１Ｋ
施工仕様書

Ｔ－０３６－６

④ 材 料

４－１　主構成材料

４－１－１　強化せっこうボード（ＧＢ－Ｆ）

商品名：タイガーボード・タイプＺ（以下、**ＴＢＺ**と称する）

（１）規格　不燃NM－８６１５（**ＧＢ－Ｆ（Ｖ)**）

（２）寸法

厚　さ　　２１㎜

大きさ(標準)　６０６㎜×１,８２０、２,４２０、２,７３０㎜

（３）性能

比　重　　０.７５～０.９５

含水率　　３%以下

４－１－２　増張り材（合成柱の場合）

せっこうボード（ＧＢ－Ｒ）

商品名：タイガーボード（以下、**ＴＢ**と称する）

（１）規格　不燃NM－８６１９

（２）寸法

厚　さ　　１２.５㎜

大きさ(標準)　９１０㎜×１,８２０、２,４２０、２,７３０㎜

（３）性能

比　重　　０.６５～０.９０

含水率　　３%以下

４－１－３　ＡＬＣパネル（合成柱の場合）

（１）規格　ＪＩＳ Ａ ５４１６

（２）寸法

厚　さ　　７５㎜以上

（３）性能

密　度　　４５０～５５０kg/㎥

４－１－４　コンクリート板（合成柱の場合）

（１）規格　ＪＡＳＳ１０

（２）寸法

厚　さ　　７５㎜以上

４－１－５　上部および下部ランナー

ＪＩＳ Ｇ ３３０２またはＪＩＳ Ｇ ３３１３など

□－４０㎜以上×３０㎜以上×０.５㎜以上

※国土交通省大臣認定を取得した以下の指定建築材料も使用可能です。

・ＺＡＭ（日本製鉄製）：ＭＳＴＬ－００６４

・スーパーダイマ（日本製鉄製）：ＭＳＴＬ－００６９、ＭＳＴＬ－００７０

※鋼製下地材の選定にあたっては、ＪＩＳ材（板厚０.８㎜）の使用を推奨します。

４－１－６　スタッド

ＪＩＳ Ｇ ３３０２またはＪＩＳ Ｇ ３３１３など

⊏－４０㎜以上×４５㎜以上×０．５㎜以上

□－４０㎜以上×４５㎜以上×０．５㎜以上

※国土交通省大臣認定を取得した以下の指定建築材料も使用可能です。

・ＺＡＭ（日本製鉄製）：ＭＳＴＬ－００６４

・スーパーダイマ（日本製鉄製）：ＭＳＴＬ－００６９、ＭＳＴＬ－００７０

高さとスタッドの選定例（ＪＩＳ Ａ ６５１７の場合）

高さ２．７ｍまで　：　⊏－　５０×４５×０．８㎜

高さ４．０ｍまで　：　⊏－　６５×４５×０．８㎜または⊏－　７５×４５×０．８㎜

高さ４．５ｍまで　：　⊏－　９０×４５×０．８㎜

高さ５．０ｍまで　：　⊏－１００×４５×０．８㎜

※鋼製下地材の選定にあたっては、ＪＩＳ材（板厚０．８㎜）の使用を推奨します。

４－２　副構成材料

４－２－１　ランナー固定金物

打込みピン、バッファーピン、くぎ、ねじなど

※ランナー固定金物の種類および間隔は、当耐火被覆構造の強度が十分保たれるように配慮してください。

４－２－２　水平目地部下地材（下張りＴＢＺに横目地を設ける場合には下記のものを使用する）

ＪＩＳ Ｇ ３３０２またはＪＩＳ Ｇ ３３１３など

⊏－１９㎜以上×４５㎜以上×０．４㎜以上

⊏－１９㎜以上×４５㎜以上×０．４㎜以上

□－２０㎜以上×４０㎜以上×０．４㎜以上

※国土交通省大臣認定を取得した以下の指定建築材料も使用可能です。

・ＺＡＭ（日本製鉄製）：ＭＳＴＬ－００６４

・スーパーダイマ（日本製鉄製）：ＭＳＴＬ－００６９、ＭＳＴＬ－００７０

４－２－３　振れ止め

ＪＩＳ Ｇ ３３０２またはＪＩＳ Ｇ ３３１３など

⊏－１９㎜以上×１０㎜以上×０．９㎜以上

※国土交通省大臣認定を取得した以下の指定建築材料も使用可能です。

・ＺＡＭ（日本製鉄製）：ＭＳＴＬ－００６４

・スーパーダイマ（日本製鉄製）：ＭＳＴＬ－００６９、ＭＳＴＬ－００７０

※鋼製下地材の選定にあたっては、ＪＩＳ材の使用を推奨します。

※振れ止め取り付けを標準仕様としますが、耐火認定上は必要ありません。

４－２－４　スタッドスペーサー（⊏ 形タイプのスタッドを使用する場合には下記のものを使用する）

ＪＩＳ Ｇ ３３０２またはＪＩＳ Ｇ ３３１３などに規定する板厚０．５㎜以上のもの

※国土交通省大臣認定を取得した以下の指定建築材料も使用可能です。

・ＺＡＭ（日本製鉄製）：ＭＳＴＬ－００６４

・スーパーダイマ（日本製鉄製）：ＭＳＴＬ－００６９、ＭＳＴＬ－００７０

４－２－５　タッピンねじ・ステープルなど

（1）タッピンねじ：ＪＩＳ Ｇ ３５０７－２またはＪＩＳ Ｇ ４０５１など
ＴＢＺの留め付け用タッピンねじ　　φ３．５㎜以上×３２㎜以上

（2）ステープル：ＪＩＳ Ｇ ３５０５、ＪＩＳ Ｇ ３５３２またはＪＩＳ Ｇ ４３０９
増張りＴＢの留め付け用ステープル　　幅４㎜以上×長さ２２㎜以上

４－２－６　接着材

増張りＴＢ張り付け用接着材
酢酸ビニル樹脂系接着材「吉野サクビボンド」など

４－２－７　継目処理などの材料

（1）ジョイントコンパウンド（パテ）
「タイガーＧＬライト」、「タイガーＦライト」、「タイガージョイントセメント」（吉野石膏製）など

（2）ジョイントテープ（必要に応じて（1）と併用して使用する場合に限る）
「タイガージョイントテープ」、「タイガーＧファイバーテープ」など

４－２－８　充てん材

（1）耐火目地材
ロックウール「タイガーロックフェルト」（厚さ１０㎜×幅２１㎜×長さ１，０００㎜）など

（2）無機質系充てん材
「タイガージプタイト」、「タイガージプシール」（吉野石膏製）など

（3）シーリング材
ウレタン系「タイガーＵタイト」、変成シリコーン系「タイガー耐火シーラント」など

⑤ 施工要領

５－１　標準施工手順

ＡＬＣパネルまたはコンクリート板の取り付け（合成柱の場合）
↓
ランナーの取り付け
↓
スタッドの建て込み
↓
ＴＢＺ上下取合部に耐火目地材「タイガーロックフェルト」を充てん
↓
水平目地部下地材の取り付け（ＴＢＺに横目地を設ける場合）
↓
ＴＢＺ張り付け
↓
ＴＢＺとＡＬＣパネルまたはコンクリート板の取合部の充てん（合成柱の場合）
（「タイガージプタイト」または「タイガーUタイト」など）
↓
増張り材張り付け（合成柱の場合）
↓
増張り材取合部の充てん（合成柱の場合）
（「タイガージプタイト」または「タイガーUタイト」など）
↓
検　　査
↓
継目部その他の処理

５－２　施工要領

５－２－１　ＡＬＣパネルまたはコンクリート板の取り付け（合成柱の場合）

ＡＬＣパネルは、ＪＡＳＳ２１ ＡＬＣパネル工事に準じて取り付ける。コンクリート板は、ＪＡＳＳ１４ カーテンウォール工事に準じて取り付ける。

５－２－２　ランナーの取り付け

（１）上部および下部ランナーは、正確に墨出しされたスラブ面などにランナー固定金物などで固定する。
（２）ランナー固定金物は、ランナーの端部より約５０㎜の位置に打ち、中間部は約９００㎜以下の間隔で固定する。
（３）耐火被覆される鉄骨梁に上部ランナーを取り付ける場合は、耐火被覆工事に先立ってランナー受けピース材を溶接などにより固定し、上部ランナーを取り付け、鉄骨の耐火被覆を施工する。

５－２－３　スタッドの建て込み

（１）スタッドは、上部および下部ランナーの内法高さ寸法より少し短く切断（約１０㎜）する。スタッドの形状は、壁高に応じて選定する。

（２）スタッドは、約４５０㎜以下の間隔で取り付ける。スタッドは、柱出隅部、ＡＬＣパネルまたはコンクリート板取合部、ＴＢＺ縦目地部および柱幅が広い際は必要に応じて中間部にも取り付ける。

（３）ＡＬＣパネルまたはコンクリート板との取合部のスタッドは、ＡＬＣパネルまたはコンクリート板に接するように取り付ける。

（４）振れ止めは、約１，２００㎜の間隔で取り付ける（振れ止め取り付けを標準仕様としますが、耐火認定上は必要ありません。）。

（５）コ形タイプのスタッドを使用する場合は、スタッドスペーサーは６００㎜以下の間隔で取り付ける。

５－２－４　耐火目地材の充てん

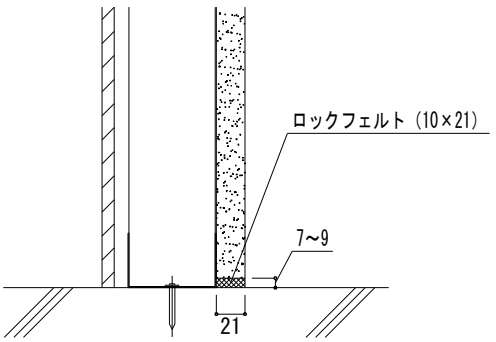
ＴＢＺを張る前に床などの上下取合部に「タイガーロックフェルト」（厚さ１０㎜×幅２１㎜×長さ１，０００㎜　（５－２－５　ＴＢＺの張り付け　例図参照））を張り付け、つなぎ目の部分にすき間が生じないように十分注意する。「タイガーロックフェルト」はランナーに張り付けない。

５－２－５　ＴＢＺの張り付け

（１）ＴＢＺは、原則として縦張りとする。

（２）合成柱の場合、ＡＬＣパネルまたはコンクリート板との取合部のＴＢＺは１０㎜以下の目透かしとなるように調整する。

（３）ＴＢＺは、床などに張り付けてある「タイガーロックフェルト」を軽く押しつぶすようにしながらスタッドにタッピンねじで留め付ける。留め付けの際、「タイガーロックフェルト」の間にすき間が生じないように十分注意する。



＜床部の納まり例＞

（４）ＴＢＺは、スタッドと接した部分に不陸が生じないように調整しながら、タッピンねじで２００㎜以下の間隔でスタッドに留め付ける。

（５）ＴＢＺに横目地を設ける場合は、横目地部に水平目地部下地材を取り付ける。横目地部補強金物は、相互のスタッドの内法寸法より短く切断（約２０㎜）する。横目地部補強金物は、あらかじめＴＢＺにタッピンねじで留め付けておいてもよい。ＴＢＺの横目地部は、タッピンねじで3箇所以上かつ１５０㎜以下の間隔で水平目地部下地材に留め付ける。

（６）ねじ頭は、ＴＢＺ表面より軽く凹ませる。タッピンねじをＴＢＺの端部に留める際、ＴＢＺの端欠けにより縁が破損しないように注意する。

（７）ＴＢＺ同士の目地部は、互いに突き付け張りとする。

５－２－６　取合部の処理（合成柱の場合）

ＴＢＺを張り付け後、ＡＬＣパネルまたはコンクリート板との取合部は、「タイガーUタイト」または「タイガージプタイト」などが奥まで行き渡り、すき間が生じないように十分注意して充てんする。

５－２－７　増張りＴＢの張り付け（合成柱の場合）

（１）増張りＴＢは、ＡＬＣパネルまたはコンクリート板と直交する面に張り付ける。
（２）増張りＴＢは、原則として縦張りとし、ＴＢＺと目地が重ならないように割り付ける。
（３）床、ＡＬＣパネル、コンクリート板などとの取合部の増張りＴＢは、１０㎜以下（目安５㎜）の目透かしとなるように調整する。
（４）増張りＴＢの留め付けは、酢酸ビニル樹脂系接着材「吉野サクビボンド」などを１００～１５０ｇ/㎡の塗布量で点付けし、ステープルで留め付ける。ステープルの間隔は、３００㎜以下の間隔で１箇所あたり１本以上とする。
（５）増張りＴＢ同士の目地部は、互いに突き付け張りとする。

５－２－８　増張りＴＢの取合部の処理（合成柱の場合）

（１）増張りＴＢを張り付け後、床などの取合部は、「タイガーUタイト」または「タイガージプタイト」などが奥まで行き渡り、すき間のないように充てんして平滑に仕上げる。特に仕上げ材の施工部分となる増張りＴＢの取合部は、次工程に配慮して平滑に仕上げる。
※「タイガージプタイト」は、乾燥硬化型の充てん材のため、施工条件（目透かし幅、充てん箇所の吸水状態）によって硬化後にヤセやひび割れを生じることがあります。ヤセやひび割れによってすき間が生じた場合には、「タイガージプタイト」を再度、充てんして平滑に仕上げてください。

（２）吹付け耐火被覆などとの取合部は、「タイガージプシール」などですき間のないように充てんする。

５－２－９　継目部などの処理

ＴＢＺおよび増張りＴＢの継目部などは、ジョイントコンパウンド（パテ）「タイガーＧＬライト」、「タイガーＦライト」、「タイガージョイントセメント」などを６０ｇ/m以上用いて平滑に仕上げる。必要に応じてジョイントテープ「タイガージョイントテープ」、「タイガーGファイバーテープ」を併用してもよい。

５－２－１０　仕上げ（必要に応じて処理する場合に限る）

ペイント、壁装材貼り、吹付けなどで仕上げる。

５－２－１１　その他設計、施工上の留意点

（１）この施工仕様書は、認定書の中から当社が推奨する材料を明記してあります。
（２）高さについては、構造計算などにより構造安全性が確かめられた寸法としてください。
（３）当耐火被覆構造に電気ボックス類は、取り付けない。
（４）当耐火被覆構造にきしみ音低減対策が必要な場合、別途ご検討ください。
（５）当耐火被覆構造を施工後、鉄骨梁を吹付けロックウールで耐火被覆する場合は、カビや汚れなどの対策のため、ＴＢＺおよびＴＢの養生をご検討ください。
（６）当耐火被覆構造は、ＴＢＺの継目処理が必須となります。
（７）ＺＣ－１Kは、２面をＡＬＣパネルまたはコンクリート板とした合成柱の耐火構造認定はありません。

⑥ 検　査

６－１　自主検査

工　程	項　目	要　点	方　法	基　　準	管理方式
ＡＬＣパネルまたは コンクリート板 張り付け	種　類	厚　さ	スケールなど	７５㎜以上	チェック検査
ランナー取り付け	固定金物	間　隔	コンベックス	約９００㎜以下	
スタッド建て込み	割り付け	間　隔	コンベックス	約４５０㎜以下	
	スタッドスペーサー	間　隔	コンベックス	６００㎜以下	
	振れ止め	間　隔	コンベックス	約1，２００㎜	
ＴＢＺ 張り付け	種　類	厚　さ	スケールなど	２１㎜	
	目　地	突き付け	目　視	突き付け張りで張っていること	
		横目地部	目　視	水平目地部下地材が取り付けていること	
	タッピンねじ	間　隔	スケールなど	スタッド　　２００㎜以下 水平目地部下地材　１５０㎜以下	
		本　数	目　視	水平目地部下地材　３箇所以上	
	ジョイント コンパウンド	位　置	目　視	継目部	
		塗布量	秤または容器	６０ｇ/m以上	
		状　態	目　視	平滑に仕上げていること	
ＴＢ 張り付け（増張り）	種　類	厚　さ	スケールなど	１２．５㎜	
	目　地	突き付け	目　視	突き付け張りで張っていること	
	接着材	重　量	秤または容器	１００～１５０ｇ/㎡	
	ステープル	間　隔	スケールなど	３００㎜以下	
	ジョイント コンパウンド	位　置	目　視	継目部	
		塗布量	秤または容器	６０ｇ/m以上	
		状　態	目　視	平滑に仕上げていること	
柱　端　部	充てん	すき間	目　視	すき間がないこと	

注）：上記表は、認定条件を満たす検査項目となります。施工監理上、必要な検査項目は別途、現場毎にご検討ください。

６－２　立会い検査

立会い検査は、建築元請業者の監督員の指示に基づいて行う。

認　定　書

国住指第　５７９　号
平成 22 年 6 月 25 日

吉野石膏株式会社
代表取締役社長　須藤　永一郎　様

国土交通大臣　　前原　誠司

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号及び同法施行令第 107 条第一号（柱：1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
　FP060CN-0415

2. 認定をした構造方法等の名称
　強化せっこうボード被覆／鋼管柱

3. 認定をした構造方法等の内容
　別添の通り

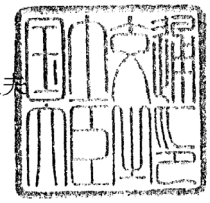
（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

認　定　書

国住指第　２５３０　号
平成 22 年 11 月 25 日

吉野石膏株式会社
代表取締役社長　須藤　永一郎　様

国土交通大臣　　馬淵　澄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号及び同法施行令第 107 条第一号（柱：1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
　FP060CN-0440

2. 認定をした構造方法等の名称
　コンクリート板／せっこうボード・強化せっこうボード合成被覆／鋼管柱

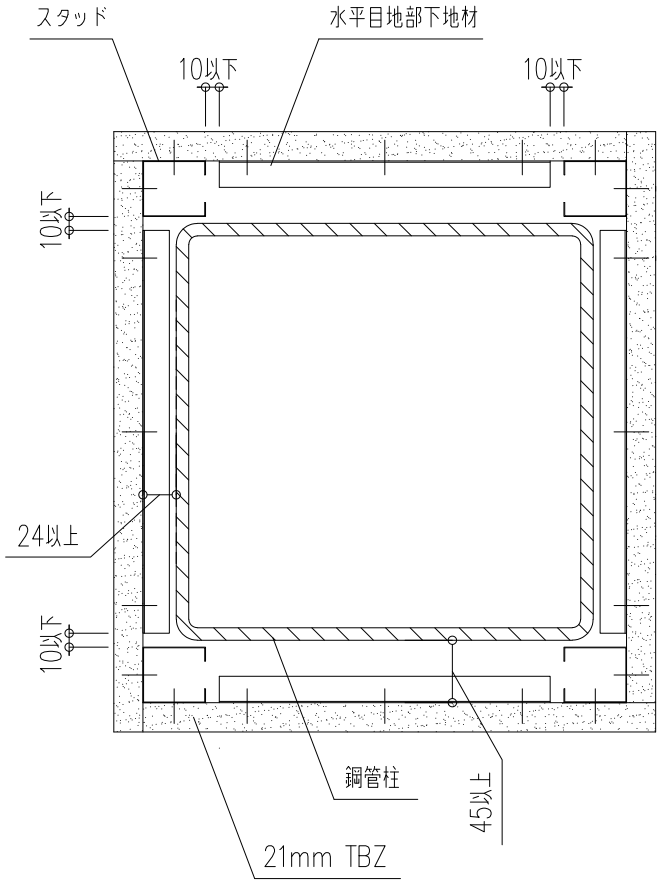
3. 認定をした構造方法等の内容
　別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

吉野耐火コラム　ＺＣ－１Ｋ
施工仕様書

Ｔ－０３６－１５

水平断面図



※ ＴＢＺの継目部は必ず「ジョイントコンパウンド」などを60g/m使用して仕上げる。

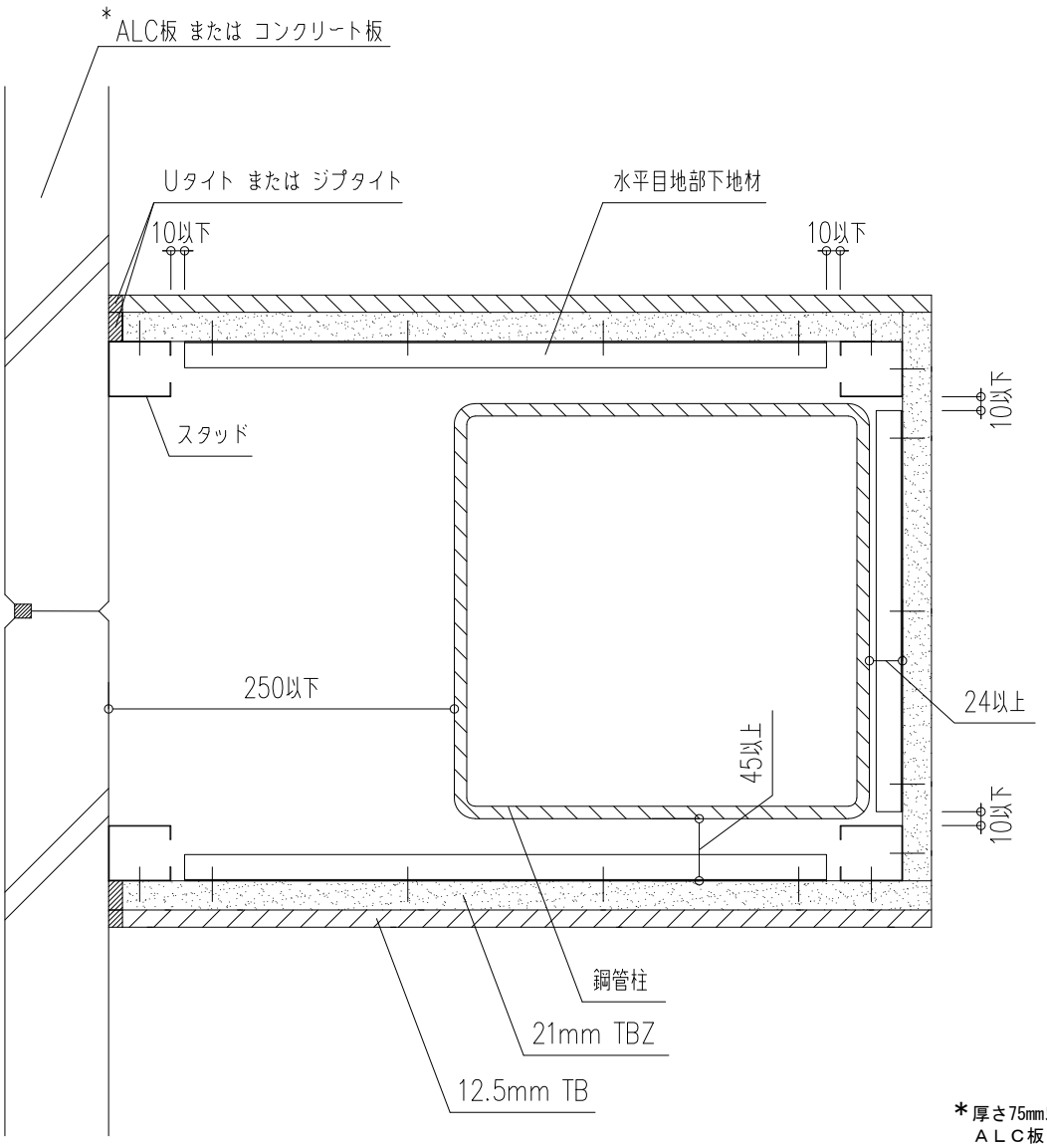
図面名　水平断面図（独立柱）

［令和８年１１月版］

吉野耐火コラム　ＺＣ－１Ｋ
施工仕様書

Ｔ－０３６－１６

水平断面図



＊厚さ75㎜以上の
ＡＬＣ板（JIS A 5416）
またはＰＣ板（JASS 10）

※ ＴＢＺ（ＡＬＣ板またはコンクリート板に直交するＴＢＺを除く）、ＴＢの継目部は必ず「ジョイントコンパウンド」などを60g/m使用して仕上げる。

図面名　水平断面図（合成柱）

［令和８年１１月版］

自主検査チェックリスト

年　　月　　日

壁　構　造	吉野耐火コラム ＺＣ－１Ｋ		
耐火構造認定	ＦＰ０６０ＣＮ－０４１５（独立柱） ＦＰ０６０ＣＮ－０４４０（合成柱）		
施工物件名			
住　　所			
工事店様名		チェック者名	
建設会社様名		監 督 者 名	
検　査　日			
検査箇所	棟　　階　　号室		

〈鋼製下地などの施工〉

No.	検査日	工　程	チェック内容	判　定		是正日
				良	否	
1		ランナー取り付け	ランナー固定金物の間隔 （端部より約５０㎜、中間部９００㎜以下）			
2		スタッド建て込み	スタッドの長さ （上部ランナーとスタッドとの間のクリアランスは、－１０㎜程度）			
3			スタッドの配列 （約４５０㎜以下・共通間柱配置）			
4			スタッドスペーサーの間隔 （⊏ 形タイプのスタッドを使用する場合は、６００㎜以下）			
5			振れ止めの間隔 （約１，２００㎜）			

〈耐火被覆の施工と躯体との取合部の耐火処理〉

No.	検査日	工　程	チェック内容	号室		
				判定		是正日
				良	否	
6		ロックフェルト 取り付け	躯体などとの取合部にロックフェルト２１を取り付け			
7		ＴＢＺ 張り付け	ロックフェルトを押しつぶすように施工しているか			
8			突き付け張りとしているか			
9			横目地部に水平目地部下地材を取り付けているか			
10			タッピンねじの間隔 （スタッド　２００㎜以下、水平目地部下地材　１５０㎜以下）			
11			タッピンねじの本数 （水平目地部下地材　３箇所以上）			
12			ジョイントコンパウンドの塗布量（６０ｇ/m以上）			
13		増張りＴＢ 張り付け （合成柱の場合）	突き付け張りとしているか			
14			接着材の塗布量 （１００～１５０ｇ/㎡）			
15			ステープルの間隔 （３００㎜以下）			
16			ジョイントコンパウンドの塗布量（６０ｇ/m以上）			
17		柱　端　部	Ｕタイト、ジプタイトなどですき間なく充てんされているか			

※当チェックリストは、認定条件を満たす検査項目となります。施工監理上、必要な検査項目は別途、現場毎にご検討ください。